

# 福生市議会

# 正和会だより

令和4年9月発行  
発行:福生市議会  
正和会  
責任者:武藤 政義  
第51号

●正和会ホームページ  
<http://fussa-seiwakai.moo.jp/>  
●メールアドレス  
fussa-seiwakai@drive.ocn.ne.jp

福生市議会正和会

検索



## 安全・安心な市民生活を守るために全力を尽くします!!

ご挨拶 正和会だよりをご覧いただきありがとうございます。新しい体制になってから1年が経とうとしています。役員をはじめ、メンバーの皆様に支えていただきながら会派の活動ができていることに感謝しております。

今年の4月に正和会のホームページをリニューアルしました。この正和会だよりもホームページでご覧いただけます。その他には、議員それぞれのプロフィール、市や都への要望事項、視察報告、勉強会などの研修記録や、会派結成以来の会長と所属議員一覧などを掲載しております。

視察については市内外の近隣施設を月に1回のペースで訪問し、勉強会については3ヶ月に1回のペースで行っていきたいと考えております。会派で行うことで、情報共有、課題共有に有効ではないかと思っております。今後とも、福生市議会最大会派としての責務を果たすべく市政発展のために頑張ってまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

福生市議会正和会 会長 武藤 政義

▲議員の写真ー前列左から：串田金八・清水義朋・武藤政義(会長)・佐藤弘治(総務会長) 後列左から：小澤芳輝(会計)・小林 貢・幡垣正生(政調会長)・山崎貴裕・石川義郎



### 研修報告

◎令和4年1月26日(水)

山下真一商工会長を講師にお迎えして、福生市役所にて勉強会を開催しました。テーマは「福生の経済について」「福生駅西口地区再開発について」「カーボンニュートラルについて」

◎令和4年5月10日(火)

参議院議員の自見はなこ先生を講師にお迎えして、扶桑会館にて勉強会を開催しました。加藤育男福生市長、玉木一弘西多摩医師会会长、近隣市町議会議員の皆様にもお越しいただきました。テーマは「子ども家庭の創設について」

◎令和4年6月16日(木)

田村利光東京都議会議員をお迎えして、福生市役所にて勉強会を開催しました。テーマは「町会自治会に対する東京都の補助金について」等

### 視察報告 ~より良い市政を目指して、視察を実施~

#### 《福生市営プール》

日 時：令和4年7月29日(金)

場 所：福生市営プール

新型コロナウイルス感染症の対応の為休場していた福生市市営プールが3年ぶりに開場することとなった事から視察を行いました。

7月の一日前での最大来場者は近隣市町村のプールが開場していないことも影響したのか、通常の約3倍の利用者がいたとの報告がありました。

土日祝日、お盆休暇の期間について利用者の増加が予想されることから、新型コロナ対策として入場を2部制にし人数制限を行うことにしたとの事でした。

入場に際して、自宅での検温及びチェックリストに記入し体調不良の事前チェック、更衣室の滞在時間を短くする等、職員の入場者に対する安全安心してプールを利用していただこうという思いが感じられた視察でした。▼2部制の入場制限等が厳格化されている



#### 令和3年度 政務活動費収支報告

1. 収 入 政務活動費 2,181,100円

2. 支 出 単位：円

科 目	金 額	備 考 (主な支出の内訳)
調査研究費	199,685円	会派電話代、プロバイダー料、タブレット端末通信費
研修費	0円	
広報費	888,362円	正和会だより(49号)発行・配布 正和会だより(50号)発行・配布
広聴費	0円	
要請・陳情活動費	0円	
会議費	0円	
資料作成費	520,254円	パソコン・タブレット用キーボード、 プリンターアイク代 等
資料購入費	82,605円	自治体情報誌(Dファイル)、 書籍
合 计	1,690,906円	

3. 収入支出差引残額 490,194円

残金490,194円については返還しました。

政務活動費は、議員の調査研究その他の活動に資するための費用の一部として、議会における会派(所属議員が1人の場合を含む)に対して交付されるものです。

#### 政務活動費とは…

#### 《立川防災館》

日 時：令和4年5月10日(火)

場 所：立川防災館

常日頃より、市民の安心安全のために防災について意識をしながら、活動に勤しんでおります。

改めて、今回の視察で新たな学びや気づきを得ることが出来ました。各議員が経験を活かし、今後の活動の中で、新たな提案に繋がると思います。

▼VR専用ヘッドセットを装着して防災助け合い活動をリアル仮想体験



防災は自助、共助、公助と言われますが、やはり自助が最重要で、身近なところから、改めて家族と共に防災準備を再確認することが大切であると思いました。その日常の小さな準備と心がけが、いざという時に大きな差となって表れてくる。

これからもより多くの人々が少しでも防災意識向上に努め、安心して暮らせるまちづくりを共に育んでいかなければならぬと思います。



▲壊れた屋根の実例を職員から聞く

